

【株式会社ハシモトコーポレーション】 芸術とリーダーシップの 関連を学ぶ

技術と美術の接点を結び、
“街の豊かさ”を紡ぐ経営

取材・文＝池田利明

D A T A

会社名：株式会社ハシモトコーポレーション
代表者：橋本 欽至
所在地：神奈川県相模原市中央区宮下 2-11-4
TEL：042-774-0081
URL：http://www.hashico.co.jp

高い品質と短納期をかなえる印刷工場の技術、操業ノウハウを、芸術品の電子化印刷まで広げる会社の根源には、高いリーダーシップと深い感性がある。



21 Unique Companies
in Sagamihara
and Tama

FILE 07

相模原市を芸術の街へ

生きている街を想い浮かべてみて下さい。そこにひろがる柔らかな街にはどのような光景が現れるでしょうか。生きている街、それは街のあちらこちらで楽しくも嬉しい芸術の事件が起きている、そんな街です。生きた作品群が、人々と共にまさに生活をしている明るい風景です。(相模原市ホームページより)

なか具体的な行動を起こすということとはないかもしれませんが、そんななか、夢の実現のために、社長がリーダーシップを発揮し、積極的に活動している企業があります。それが相模原市の印刷会社、『株式会社ハシモトコーポレーション』です。遠くからすぐわかる真紅の社屋。駐車場にある有名画家の大きな複製画、社内には洗練されたギャラリーがあり、社長席の周りには大小の絵画が所狭しと飾られています。これは「相模原市を芸術の街に」という橋本欽至社長の想いであり、文化と共に成長しようとするハ

シモトコーポレーションの想いが形となったものです。

ハシモトコーポレーションは、資本金1000万円、社員47名のオフセット印刷を得意とする会社です。数万枚の封筒を一夜のうちに印刷して納品することも、キャンバス地に絵画の複製を印刷することもできる同社は、いろいろな印刷物の版下製作からオフセット印刷までを手掛けています。

「人間の知恵は無敵である。もう一段高い目標へ挑め」という社内方針を掲げ、「印刷技術の高度化」と「印刷品質の向上」に45年間絶え間

なく取り組み、社員の信頼と顧客の信用を得てきました。

印刷会社であるハシモトコーポレーションが、「相模原市から、芸術・文化」のうねりを世界に広める」という壮大なロマンに挑戦しています。その想い、そしてビジョンを橋本社長に伺いました。

芸術の街へ発揮される リーダーシップ

「文化がなければ、経済活動は育たない」と橋本社長。その考えを、真剣な眼差しで語ってくれました。



(写真上) 芸術とビジネスを結びくことを実践する経営者、代表取締役の橋本欽至氏 (写真中) 多くの工場が立地する中ですぐにわかるカラフルな本社工場社屋。(写真下) 印刷工場では、繊細な感覚を持ち装置を駆使する社員があちこちにいる。

「ビジネスをただの経済活動とは考えていません。人々の活動を活発にし、お互いの交流から新しい文化を生み出し、より多くの人々が集まり出す。新しい文化から芸術が生まれ、街に根付き、豊かになり、また新たなビジネスを生み出す。そのサイクルが大事。芸術・文化のうねりが人々や街を蘇らせると、考えています」

文化・芸術を大切に育て育むというのは、日本人の原点でもありません。かつて、「北斎」「歌麿」などを育て日本文化を形造ったプロセスを、この相模原に根付かせようと考えているのです。そのために、有名画家の作品を多くの市民が鑑賞できるように、そして、新進の美術家の成長を市民が応援できるような仕組みをつくらうとしています。

橋本社長は、重要なキーワードの1つとして、鑑賞、という言葉も挙げています。多くの人に鑑賞してもらおう、もっと身近に感じてもらう。そのためのツールとして、今後は良質なレプリカが必要になってくると言います。また、世界への発信も見据え、作品のデジタルデータ化と共にアーカイブをつくることも必

要になると考えています。その思いを元に、「相鑑舎」という団体を仲間と立ち上げました。

街と芸術を紡ぐ「相鑑舎」

人々に開かれた芸術の街、芸術に開かれた街・相模原をつくりたいと考え、多種多様な発信基地を、さまざまな人々とつくり上げていく、その1つの拠りどころとして、「相鑑舎」を設立しました。(http://sokansha.jp)

技術と芸術の接点は、感性が大事

品質にこだわり、質感を再現するためには、素材の立体感や臨場感を捉える必要があります。

そのために、立体的な陰影を記録できる機材をドイツまで出張し購入しました。この機材により、各段にデータは良くなりましたが、ここで重要になってくるのは、感性、だと言います。ただ単にこの機材を使えば良質なデータが得られるというものではないのです。特に白黒の濃淡だけで深い世界を表す水墨画は難しいと話して下さいました。ハシモ

トコーポレーションは技術だけではなく、良いものを見て、触れて、育まれた「感性」というものを大事にしています。そしてその結果は、確かな品質を生み出してきた今までの実績に表れています。

この感性があるからこそ有名美術家も作品の電子化に「OK」を出すのです。

1つひとつ成功を積み上げる

橋本社長は、朝5時に出勤してきます。朝の空気のきれいななかで美術品を眺め、色彩を確かめています。以前はこの時間に納品物のチェックをしていました。今はより鋭い感覚で美術品を見て、それを再現することに傾注しています。

企業の継続には、多くの汗と涙を必要としますが、橋本社長はその積み重ねを経済活動だけでなく、「芸術都市・相模原」の創造に費やしています。

印刷の未来が変わる

今、印刷業界は大変厳しい状況

に置かれています。印刷業界全体では対昨年比マイナス4%成長と予測されています(2011年)。ビジ

ネス向け出版物、配布物だけでなく、折り込み広告のような一般向け印刷物も同じ傾向です。今後はさらに、より高度な技術を安価に提供して、パソコンやプリンタで印刷したものとは品質レベルの異なる製品を提供することが求められています。

ハシモトコーポレーションはこの厳しい状況をプラスに変え、市場の要求に答えてきたのです。そして、さらにその先を見据えています。

それは、決してビジネスのためではなく、人が、街が、常に芸術と共に存在する「明るい風景」を生きている街を実現するために、「高価な機材」「高度な技術」を活かしたいと考えているのです。

「1つの立派な美術館を建てるよりは、街中に100カ所、鑑賞できる場所をつくらう方が、市民の芸術への理解も深まり、また、小さな子ども頃から芸術に触れ合うことができるはず」と橋本社長。

「当社のギャラリーは常設で開放しています。是非、見に来て下さい」と笑顔で答えて下さいました。

21 Unique Companies in Sagamihara and Tama FILE 07

【株式会社ハシモトコーポレーション】



社屋の一部を改装しギャラリーをオープンする。ここでは、相模原在住の美術家、写真家などの展示会を開催し、随時公開している。

受け継がれるリーダーシップ

橋本社長は「他人(社員)を変えたければ、自分を変えればよい」と役職者へ言明しています。

「相模原市を芸術の街へ」という取り組みを、ハシモトコーポレーションを変えることから始め、実践してきた橋本社長。そんな社長のリーダーシップが、どのように社員に受け継がれているのか、印刷工場の中を拝見させていただき、竹村和広工場長を取材させていただきました。

オフセット印刷に、感性をそそぐ!

お客様の依頼から始まる印刷の仕事

たった1枚の簡素な注文書から、多色混合の高度オフセット印刷の仕事は始まります。

版下原稿を製作するのは別部門ですが、お客様の注文通りの印刷物、しかも数万枚の納品物に仕上げるのは、印刷工場を管理運営する竹村和広工場長の役割です。

40数年にわたる印刷技術とノウハウの蓄積が、さまざまな美術品の電子化を可能とし、電子化した作品をより多くの人が鑑賞できるように屋外設置書籍化を進める。





紙質、インク特性などの目に見えない変化へ対処するノウハウが、リーダーから社員へと受け継がれている。



高品質を求める取引先の大手封筒会社に応じ、高度な技術の習得はノウハウを蓄積してきた。



(写真左) 毎朝出社後すぐに工場を見回る竹村工場長の姿。(写真中央) 作業開始前、担当者へ細かい指示を出すのが明るい笑顔は絶やさない。(写真右) 納品物の最終検査。最初と最後の1枚に違いがないか確かめる目は一段と厳しい。



年々短縮する納品時間との戦い

お客様の依頼は年々厳しくなっています。品質の厳格なチェックだけでなく、製作納期も以前と比べると大変短くなっています。もちろん封筒の印刷ですから、お客様は内容物の印刷差し込みなど他の工程に時間をとることができるようになりません。このような納品物だけを見るのではなく、お客様の依頼の背景に何ががあるかを考慮して製作することも「顧客志向」の1つとなります。

たゆまぬ技術開発と厳格な作業工程

オフセット印刷の世界は、印刷機械の進歩だけでなくその機械の操作手法を進歩させ、初めて最先端の印刷技術をお客様へ提供することとなります。一見、納品物による違いは簡単のように思えますが、多色印刷は、湿度、気温により紙類、インク類の特性が大きく異なります。

使用する印刷機械の調子も異なります。その100分の1ミリにも満たないさまざまな調整を積み重ねて、印刷物はできあがります。その完成した納品物にシミ、汚れなどがつくことがないように途中経過を子

細にチェックすることも重要な作業工程の1つです。

技術の伝承が、世界を変える

工場の作業は、日本人だけでなく中国人留学生も加わっています。橋本社長は、「文化を創り出す技術をグローバルに伝承すること」を目的に留学生を受け入れています。

近い将来、ハシモトコーポレーションの高度な印刷技術が中国の印刷業界をうならせることになるでしょう。そして、その先の先を見てい

るのが、橋本社長です。

お客様に感動を与える納品物

竹村工場長は、ほとんどの納品物の最終検査を自ら行います。

最初の1枚と最後の1枚の納品物がわずかでも異なるようでは、お客様には受け取ってもらえません。お客様に信頼される納品物を提供するために、そして作業工程担当者への信頼、会社への信頼を勝ち取るために、厳しい目で最終検査に臨みます。



抜き取り検査も行う。色合いのチェックは、この会社の重要な工程でありノウハウでもある。

21 Unique Companies in Sagami-hara and Tama
FILE 07
【株式会社ハシモトコーポレーション】

技術を体で覚える

竹村工場長は、自宅が近いこと、高度な機械(当時の印刷機)を操作できることなどでハシモトコーポレーションに新卒応募しました。

入社直後から難しい仕事を任せられ何回も挫折しましたが、祖母の「3年間辛抱だよ」と言われたのを肝に銘じてがんばっていました。3年目くらいからミスもなくなり先輩に難しいと言われた仕事をこなし、自信が持てるようになりました。そうするとさらに難しい4色オフセット印刷を任せられるようになりましたが、当時の印刷機は調整しろが大きく、さまざまな外的条件に合わせて調整することを覚えるのが大変でした。現在の最終検査にもこの頃に習得したさまざまな事柄が役立っています。

ちょうどグループのリーダーとして任されるようになった5年くらい前には仕事量も多くなり、印刷機をほぼフル稼働しなければならず、メンテナンスも容易ではありませんでした。このメンテナンスがいかに重要か、教えられることになったのもこの頃です。

いくら忙しくてもきちんとして

印刷機の保全活動(修理以前のメンテナンス、消耗部品の交換など)を怠ると、最初の1枚と最後の1枚が違う製品となってしまいます。これを体で覚えたのがこの頃となります。

感動は品質から

ちょうどこの頃、あるお客様から「作業手順書を見せて下さい」との話が出てきました。これが、品質管理の最初の一步となります。

今まで職人仕事として先輩から後輩へ口頭で伝えられていたさまざまな作業手順(高度な手法)が、ハシモトコーポレーションで標準化されて作業手順書としてまとめられるようになりました。

これを機会に印刷技術は、このレベルに留まらず、さらに1ステップ、2ステップと高度、精密になり競合他社との差別化ができるようになりました。このために竹村工場長は、以前自ら進んで品質管理講座を聴講し、さがみはら産業創造センター主催の職場リーダー塾へ参加しリーダーシップを学んでいます。

印刷工程は、機械品の製作工程と比べ、一見工程が簡単でシンプル

に見えますが、見えない環境条件との戦いです。温度、湿度ばかりではなく、材料となる紙質・紙厚、インクの品質、使用量など多岐にわたります。

文章で表せないことも作業手順として伝えるために、トラブル発生時に原因、対処方法とともに、事前の保全活動の何が不足し、どうしてトラブルが発生するかを説明しています。

リーダーシップが変わる

魅力ある会社

橋本社長と竹村工場長、社員が一体となり進めた改善活動が、顧客からの信頼を勝ち取り封筒からスタートした印刷は、カタログ、チラシ、ポスターなどとビジネス拡大し、技術力は、美術品の高度複製まで担うようになったのです。

橋本社長が築いた「技術」を、そして「感性」を大事にするハシモトコーポレーション。

今さらなる次元に向けて「美術品の電子データ化」とそれを利用して「多くの人々に鑑賞してもらう」プロセスの創造に向けて第一歩を踏み出しています。